

採択事業 No.6

種 別：自由提案型事業

団体名：INCLINE

事業名：(仮) あわいレディオ+清荒神の今を紹介するメディアをつくる

交付決定額：200,000 円

(事業を行おうとした動機)

清荒神参道は、清荒神清澄寺のお膝元の商店街として季節を問わず賑わってきたが、昨今は参拝者の高齢化やネット通販による流通のあり方が変わり、路面の商店が減り住宅が増え商店街としてのまちなみが保てなくなりつつある現状であった。

しかし、令和1年10月に市民が気軽に利用できるシェアスペース(チャレンジショップ) &シェアオフィスである、「INCLINE」(清荒神 5-1-8)を OPEN。

また令和2年5月にかまどの神様のお膝元清荒神に食に興味のある人の集いの場として、食に特化したシェアハウス、「awai KIYOSHIKIJIN」(清荒神 5-100)を立て続けに OPEN させたことによって確実に清荒神のマチの雰囲気が変わったように感じる。

令和2年に、「willy」(COFFEESTAND、apparelshop)、「uhhwee」(hairsalon、apparelshop)の2店舗が OPEN、どちらも若い力を感じる20代の経営者である。

令和3年には、絶大な人気を誇る「シチニア食堂」(レストラン)(清荒神3丁目14-13)の参道移転、雑誌などに取り上げられ知名度の高い「ミズタマ舎」(器屋)(清荒神4丁目17-5)が豊中市から移転する。また、ゲストハウスと八重山そばを提供する複合施設「F b LAT」(清荒神3丁目14-16)も OPEN した。

「KIKILUAK」(コーヒースタンド)「casimasi」(本と雑貨)、「Before dark」(革小物製作販売)などの店も平成30年にオープンし強い影響力をもっている。

このように近年、活発になってきている清荒神の現状は単体の店々の努力だけではなく、それぞれの店のイベントやリュックサックマーケット、INCLINE や awai でのイベントなど、新店舗ができる際に開催する施工ワークショップ(奥田達郎建築舎主催)など、地道な交流活動、個人のつながりによる賜物である。

しかし、そのつながりを可視化するのは難しく分かりづらくなっているが、清荒神の魅力はそのつながりにあると私達は考えている。清荒神と web 検索をかけてもわかりやすい紹介文は見当たらないのが現状である。

そこで、現在手弁当で細々と配信しているポッドキャスト「あわいレディオ」をしっかりとブランディングし、PR をチラシやホームページ、音響機材などを揃えることで、もっと多くの方に清荒神の今の様子を伝えられるようにする。

※現在の「あわいレディオ」は小さい地域の楽しみ方を考えるラジオプログラムというコンセプトを掲げ、INCLINE オーナー平田と、奥田達郎建築舎主催で、INCLINE の実質運営を

行う奥田の2人がパーソナリティとなり、毎回ゲストとして、清荒神で活躍される人、他の地域でマチづくり活動をされている方などをお招きし、清荒神のマチの今後を考えたり、他者の考えを知る為の番組。ユニークリスナーは150人程度、現在20エピソードを配信、総再生回数2000回程度。

音声メディアという気軽に楽しめるツールを使い、密度の濃いアーカイブとして現在の様子を残り発信することが清荒神や宝塚の為にとても大事なことだと考えている。

(事業を行う目的と期待される効果)

- ▶清荒神参道の魅力の発信。
- ▶店単体の魅力ではなく、店同士のつながりや住人との交流の興味深さを伝える。
- ▶清荒神というマチの個性を表面化できる。
→グローバル化の進んだ現代社会で、魅力的なマチになる一番大事なことは、『マチに個性』があるということだと考える。既存の事業者や住んでいる人の想いやこだわりを表面化し発信することで、近しい価値観の事業者や住人を増やし、より個性を明確化できる。
- ▶移住者促進による人口増加。
- ▶新規事業者の促進。

(事業の内容)

「あわいレディオ」をアップデートする。

現在手弁当で細々と配信しているポッドキャスト「あわいレディオ」をブランディングし、もっと多くの方に伝える努力をする。HPの作成、広告チラシの作成、もっとたくさんの地域住民ゲストを招くなどなど。

「(仮) 清荒神の参道の今を紹介！」という特集回&webページも作成する。

「(仮) 清荒神の今を考察するオンライン対談」開催時期：年1回(令和4年3月予定)

場所：オンライン(収録 INCLINE)、集客目標：150人(オンライン上で)、ゲスト未定